

I 学校の概要

課題解決型学習実践モデル校事業

高松市立香川第一中学校

◆ 児童生徒数及び教員数（令和6年5月1日現在）

○ 生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全 校
5 学級 154 名	5 学級 164 名	5 学級 173 名	5 学級 19 名	20 学級 510 名

○ 教員数 54 名

◆ 学校の特徴

本校の生徒は、純朴で、人懐っこく、優しい生徒が多い。運動会、合唱コンクールなどの学校行事や地域のボランティア活動にも、なかまと協力して意欲的に取り組む。部活動において文化部は、地区文化祭などで演奏や伝統芸能を披露するなど、地域との関係は良好である。また、バレーボール部やハンドボール部などは四国・全国大会の常連校として高い目標をもって日々練習に励んでいる。

学習面においては、苦手なことや興味関心の低いことに粘り強く取り組めず、あきらめてしまう傾向があるため、全体として学力の十分な定着に結び付いていない。その一方で学習に意欲的な生徒も見られるが、低学力に悩む生徒との交流は薄く、いわゆる学力の2極化の傾向が見られる。

II 研究主題等

研究主題

自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり

ー 特別活動を軸にした学力向上のための基盤づくりをめざしてー

◆ 研究主題設定の理由

本校では、平成29年度よりユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善とともに、学級活動の取組として、「一中学級力向上プロジェクト」という生徒主導の学級会を行い、学校行事等で生徒が自分たちの課題に対して、解決のために協働して取り組み、結果を振り返って修正して活動する取組を行ってきた。

令和2年度からは生徒指導の三機能の視点を研究の柱とし、自己指導能力を高める取組を行ってきた。特活部会の「一中学級力向上プロジェクト」により、自分たちで課題を設定し、対策案を出し合い、合意形成をする経験を積ませ、その過程を教科の授業にも取り込み、課題に対して意見や考えを練り上げていった。令和4年度には、この実践研究の成果を誌上発表にて行った。

これまでの取組により、本校では、居心地がよく、お互いに安心して発言し合える、学び合える環境ができつつある。そこで継続して研究に取り組んできたあたたかな人間関係づくりと、特別活動の「課題解決型学習」のサイクルを取り入れた学習活動をさらに充実させ、授業改善を推進することで、日々の授業に対する生徒の

意識改革や授業での学びを、次回以降の学習意欲につなげ、学習内容を深めるために基盤づくりを行いたいと考え、研究主題を設定した。

◆ 研究仮説

本校の「一中学級力向上プロジェクト」によって培われたあたたかな集団づくりと、課題解決型学習のサイクルの実践を通じて、生徒が「できた・わかった」と学ぶ楽しさを実感する機会が増え、学習に向かう意欲を高めていくことができるのではないかと。

◆ 研究内容及び方法

1 教育活動での課題解決型学習のサイクルの実践

- ・ 特別活動の視点を取り入れた本校の課題解決型学習（「一中学級力向上プロジェクト」）を様々な教育活動場面で実践する。これにより、課題解決に向けた意欲化を図り、解決したときの成功体験を称賛することで、次の課題に向けての自信につなげさせたい。

【 香川第一中学校の課題解決型学習「一中学級向上プロジェクト」 】

①課題の設定と見通し → ②協働的な学び → ③振り返り → ④新たな課題発見

- ・ ICT 機器を効果的に活用し、教師の授業改善にもつなげる。
- ・ 学級会、生徒会を中心とした学校行事や専門委員会活動、地域でのボランティア活動の推進する

2 「学び合いタイム」を活用した、学習する楽しさとわかる経験

今年度から、テスト期間に短縮授業を行い、生み出した時間を利用して「学び合いタイム」を実践する。より身近な生徒が教えることで、学習が苦手な生徒は「わかった」「できた」と実感でき、教える側も友人に教えることで自らの理解をさらに深めることにより、学力の2極化解消に向けた第一歩とした。

3 組織づくり

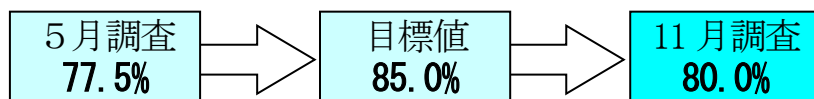
授業力向上プロジェクト	特別活動プロジェクト	なかまづくりプロジェクト
○ わかる授業づくりの推進 「課題解決型学習」のサイクルを取り入れた授業計画を作成する。 ○ 効果的な振り返りの研究 振り返りの観点を明確にし、生徒の学習意欲の向上につなげる。 ○ 協働的な学びの継続 活動内容の視点を明確にする。	○ 「一中学級力向上プロジェクト」の継続 ○ 専門委員会の活性化 学級内で専門委員会班をつくり、いずれかの専門委員に協力させることで、参画意識を高める ○ 生徒会を中心とした広報啓発活動の推進 校内掲示物の作成や地域ボランティア活動への参加を促す	○ アンケート実施・分析 アセスアンケートなどから、生徒の実態調査・分析を行い、最適な支援方法を探る。 ○ あたたかな集団づくりを意識して、道徳や人権・同和教育、教育相談などを実践 ○ 「学び合いタイム」の実施 生徒の学習意欲向上や学習習慣定着に向けたきっかけづくりを行う。

Ⅲ 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

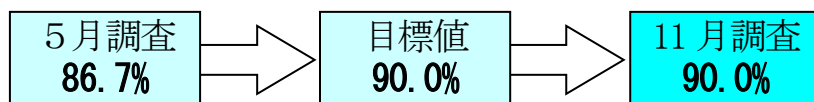
1 (生徒アンケート) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

指標 「①している+②どちらかというとしている」の合計



2 (教師アンケート) 生徒の実態を把握し、授業のどの場面でどのように活躍させるか、工夫していますか。

指標 「①している+②どちらかというとしている」の合計



指標の達成に向けた実践

(1) アセスアンケート調査の分析

アセスアンケート調査を行い、教師は集団の中において生徒がおかれている立場について理解した。まず、アンケート調査の概要と分析方法について全教員で研修を行った。6月、11月にアンケート調査を行い、その結果を各学年の教員が7月と12月に分析し、気になる生徒に対しての改善案を考え、授業や学校生活で実践し、生徒の変容を確認している。

(2) 「一中学級力向上プロジェクト」

生徒が、自分事として考えられる課題を話し合う場として、「一中学級力向上プロジェクト」(図1)を継続している。

これは、よりよい学校(学級)にするために、自分たちの生活を見直し、改善する方策を考え、実施するプロジェクトである。学期に一回、振り返りとしてアンケートの実施や掲示物作成を行い、その結果をもとに、再度話し合いを行って対策を練り直していった。



図1：「一中学級力向上プロジェクト」の流れ

生徒はこの活動を通して、課題に対する自分の意見をもつことや相手の意見を尊重して聞くこと、話し合いを通してよりよい案に高めていくことの大切さを感じていた。学級会後の感想では、「自分では考えられなかった対策案が友達との話し合いで出た」「話しているうちに、いろいろなアイデアが出てきた」など考えの広がりや深まりが見られた。(図2、図3)



図2：学級の課題



図3：学校行事

(3) 生徒会を中心とする地域との交流活動

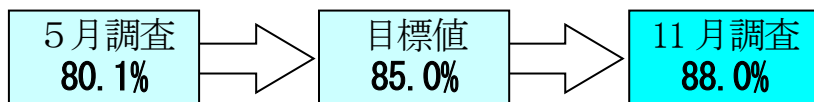
生徒会が中心となり、一人一人の得意なことやよいところを生かして活躍できる場の検討、実践を行った。その一つとして、本校区内は、高齢化が進んでおり、地区の文化祭などの準備、片付け、運営面で課題を抱えている。地域からの声を受け、生徒会を中心に啓発活動を実施し、生徒たちが自分たちにできることは何かを考え、あいさつ運動、地域の祭りでのテント張りや撤去作業、プランターの花植え、伝統文化の継承などに取り組んだ。こうした地域との交流を深める校外活動についても、学校で学んだことがもとになり、課題解決に向け、生徒は自主的に取り組む姿がみられた。また、生徒同士のつながりが強くなり、それぞれ自分の得意な分野で活躍できる場が増えた。(図4)



図4：地域の祭りなどでのボランティア

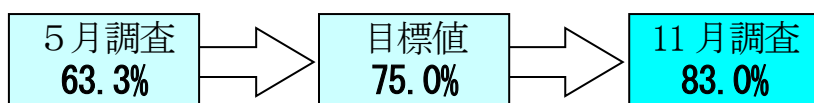
3 (生徒アンケート) 授業の中で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



4 (教師アンケート) 授業では、自分の意見をもって話し合いに参加できるように時間等を工夫していますか。

指標 「①できている+②どちらかといえばできている」の合計



指標の達成に向けた実践

(1) 授業改善に向けて取組

各教科で指導案作成時に、「課題解決型学習」のサイクルを取り入れるだけでなく、ペアや班活動のメンバーを決めたりする際にもアセスアンケート調査分析を参考にしている。生徒理解が深まったことで、学習活動も円滑に行えていると感じている。

また、生徒が自らの学びを確認し、新たな課題を見つけることを目的とし、各教科で授業後や单元ごとに学習を振り返る活動を継続して実施した。参観いただいた香川大学教育学部准教授 岡田先生から指導、助言を受け、授業改善に生かしている。(図5、図6、7、8)

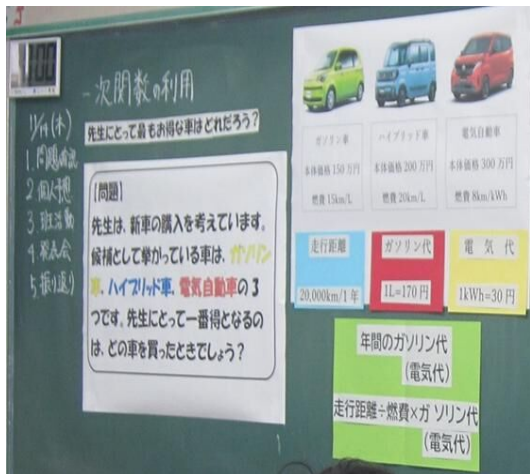


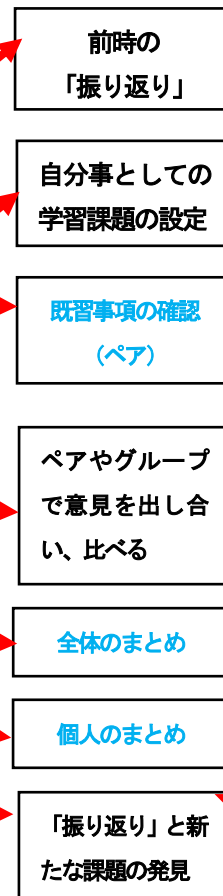
図5：学習課題の設定



図6：ペアで協力し、発表

(2) 学習指導案（英語科、一部抜粋）

学習内容及び学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
1 Warming-Up (1) 本時の流れをホワイトボードで確認する。 (2) ペアで「すらすら英会話」の練習を行う。(1分45秒×2回) 2 学習指導を把握する 1年団の先生方を「Who am I?ゲーム」で紹介しよう。	・本時の流れを提示することで、生徒に授業の見通しが理解しやすいようにする。 ・会話の幅が広がるように、会話カードを参考に自分の答えで返答するように促す。 ・前時に生徒が立てた自身の目標と比較しながら、本時の目標を立てさせる。
3 各グループで Who am I?ゲームをする。 (1) リハーサルを行う。 (2) 各グループで分かれて、ゲームを7回行う。 (3) 3回目を行う前に、問題の出題時にお互いのやりとりを録画する。 (4) 映像をもとに、各グループで良かった点と改善点を確認し、4回目以降のやりとりの活動に生かす。 (5) 全体で、各グループの答えを共有する。	・自分で立てた目標レベルを意識して練習に取り組ませる。 ・時間で区切って円滑に動けるように流れを指示しておく。 ・やりとりを録画することで、周りや自分の発表の映像を比較して、良い点や修正点を明確にさせる。 ・各グループの英文を共有し、先生方の答えだけでなく、参考になる英文法事項も確認させる。
3 自分自身に関する英文を作成する。	・書くことに対して苦手意識をもっている生徒のために、黒板やワークシートにヒントを示したり、机間巡視したりしながら支援する。
4 本時の振り返り 本時での自身の取組の様子を振り返り、ワークシートに書く。 (例) Who am I?ゲームへの取り組み方、アイコンタクト、発表の声の大きさ、相づち、質問等	・今日の発表のやりとりの取組を通して、次回以降の授業の意欲付けになるように良かった点を中心に書かせるように指示する。



課題解決型学習の流れを意識した授業構成

Unit 8-3 (P82,83)	Date	Self Assessment (自己評価)	Comments (good/difficult points...etc.)
New Words	12月20日	A 単語を発音できて、綴りも書ける	happenにingをつけるのがhappeningになって意味が起るから起こっているに変わると分かった。また、You're welcome!は★4つなのでスベルを覚えたい。また、forgetはDon't forget.(忘れないで)などに使うので単語だけでなく使い方も覚えておきたい。
		B 単語を発音できるが、綴りが自信ない	
		C 発音も綴りも自信がない	
New Grammar 「How 形容詞! What 形容詞!」 「なんて～なんだろう!」	12月17日	A 問題をすらすらと解けて、文法を使って解ける	Whatの後にaをつける場合は複数の名詞や数えきれない名詞以外で、そのあとに母音が来たらaがaniになると分かった。また、最後にはIをつけるのと分かった。
		B 問題を解くのも、文法を使って解くのもある程度できる	
		C 問題を解くのも、文法を使って解くのもミスが多かった	
本文の内容 【P82,83】 (Q and A ...etc.)	12月20日	A 本文を読んだり、聞いたりして内容がきちんと理解できた	本文の内容では、誕生日プレゼントにかわいいバッグをもらっていたので、メガが気に入っていた。また、前に習った感嘆文が文⑩と文⑪に使われていたし、ありがとうにたいしてYou're welcome!で返していい方を理解することができた。
		B 本文を読んだり、聞いたりして内容がある程度理解できた	
		C 本文を読んだり、聞いたりしたが、内容で不明な点がいっぱいあった	
本文音読 【P82,83】	12月20日	A 本文を全てすらすらと音読できた	happenとhappeningの読み方を混同させてしまうので、しっかりと文を見て読んでいきたい。また、驚いているところ(主に感嘆文など)は強く読んで、発音のメリハリをつけていきたい。
		B 本文をゆっくりだが、ちゃんと音読できた	
		C 本文の単語の読み方に時々読み間違いながらも音読できた	

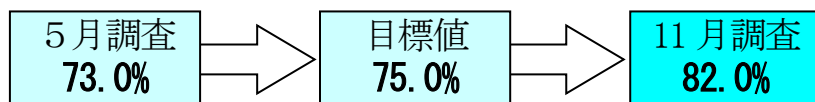
図7：授業（英語）の振り返り



図8：授業討議の様子

5 (生徒アンケート) 授業で友だちとの交流を通じて、次への学習意欲につながったと思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



指標の達成に向けた実践

(1) 「学び合いタイム」

「学び合いタイム」は、まずテスト範囲の基礎内容の復習から始めた。当初は遠慮がちであったが、自分の弱みを受け止めてくれるあたたかな集団に支えられ、次第に交流の輪が広がった。その後、休憩時間などでも問題を出し合ったり、わからないところを聞き合ったりする姿が見られ、学習に対する意欲化が進んでいる。(図9、10)



図9：「学び合いタイム」の様子

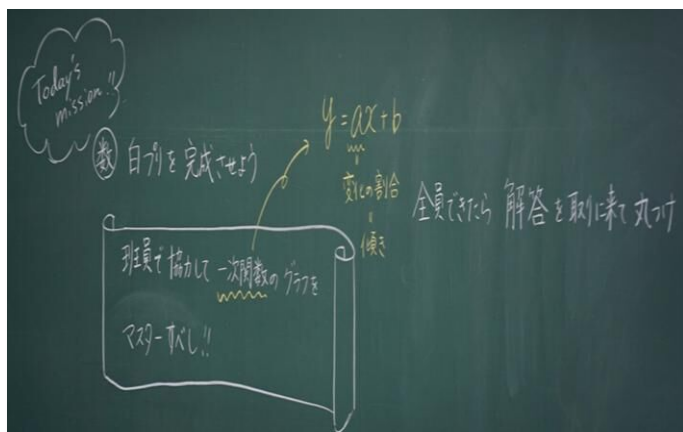


図10：「学び合いタイム」での学習課題

(2) 校内の掲示物作成の推進

学級活動、生徒会活動や学校行事の取組などをポスター等にまとめ、校内に掲示することで、振り返りや次に向けての意欲化を図った。今後は授業の内容をまとめたものを掲示することで学習に対しても意欲化を図ろうとしている。(図11)

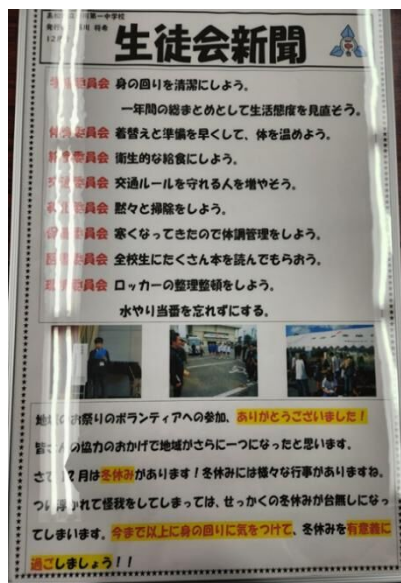


図11：校内掲示物

IV 研究の成果と課題

◆ 研究の成果

安心して意見を出し合えるあたたかな人間関係を基盤に、これまで継続して行っている「一中学級力向上プロジェクト」の成果を踏まえ、生徒たちが学校生活をよりよくしていこうとする活動を実施した。また、教師集団が意識して取り組んでいる「課題解決型学習」を教科指導に生かすことにより、県質問紙調査や生徒観察を通じて学習意欲向上の成果が見え始めている。

<成果面> 令和6年度県学力学習状況調査 生徒質問紙結果より（県平均との比較、一部抜粋）

- 授業は楽しいと思いますか。 +4.9
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。 +5.2
- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。 +5.2
- 勉強は好きですか。 +5.4
- 普段の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。 +5.4
- 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。 +6.7
- 授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。 +6.9

◆ 今後の課題

学習への意欲化が見られる一方で、学習内容の理解度については課題が残る。校内アンケートで「学習内容が理解できましたか」に対して、肯定的意見が5月は90%を超えていたが、11月調査では4ポイント下がった。学習が進むにつれて難易度が上がっていることが一因と考えているが、県質問紙調査より、「わからない問題にあきらめずに取り組む」が県平均を大きく下回っており、そのため、家庭で計画を立てて学習に取り組むことに課題を感じている。

そのため、今度も「わかった、できた」という成功体験を積み重ねさせたり、周囲がそのことを称賛したりすることにより、学習に対して自信をつけさせていきたい。また、授業等では、あえて少し解決困難な課題を課すことにより、協働的な学びを通して考えを深めたり、広げたりする力をつけさせ、あきらめずに挑戦する意欲をさらに高めたい。

<課題面> 令和6年度県学力学習状況調査 生徒質問紙結果より（県平均との比較、一部抜粋）

- 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。 -11.2
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。 -6.2
- むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。 -1.8
- 授業に、自分の目標（めあて・ねらい）をもって取り組んでいますか。 -1.5
- 授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができていますか。 -1.3
- 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点等を見直し、次の学習につなげるための振り返る活動を行っていると思いますか。 -1.3
- 授業の内容がどの程度分かりますか。 ±0